

管内の百名山「天城山」



天城山遠景

伊豆半島は、かつて南洋に浮かんだ火山島でしたが、100万年ほど前にフィリピン海プレートが本州に衝突して誕生したため、伊豆固有の植物が多く存在していると言われてます。

伊豆半島の中央部に位置する天城山は、最高峰の万三郎岳（標高1,406㍍）、万二郎岳（標高1,299㍍）などの山々から構成される連山の総称で、山稜部はブナやヒメシャラなどの広葉樹林が広がっており、各種保護林や国立公園に指定されています。

天城山にはハイキングコースが多くあるのが特徴で、固有種であるアマギシャクナゲなどの花の季節（5月上旬）や紅葉時期（11月下旬）には、多くのハイカーが訪れます。

「天城の瞳」と呼ばれている八丁池の展望台からは富士山や伊豆諸島を望むことができ、今冬は近年珍しく全面結氷したため、真冬にも関わらず多くのハイカーが訪れていました。

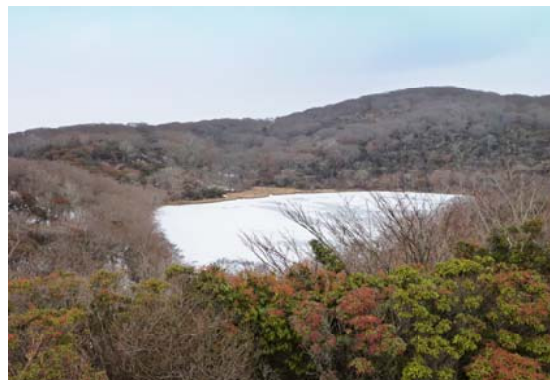


アマギシャクナゲ

また、天城山に生育するブナは根元から枝分かれしているものが多く、木によって様々な表情があるため、地元の人々や多くのハイカーを魅了しています。

しかし近年、ブナ枯れが目立つ場所が広がってきており、その後の後継樹も育ってきていないため、地元の人々は将来的にブナ林がなくなってしまうのではないかと危機感を抱いています。

伊豆森林管理署では、天城山の貴重な森林生態系を後世に引き継いでいくため、地元の人々の声に耳を傾け、地域と協力してブナ林や衰退が危惧されているマメザクラの保護など、様々な取り組みを実施していくこととしています。



今冬の八丁池



様々な表情のブナ

（伊豆森林管理署 広報広聴連絡官）



アマギツツジ（6月中旬～7月見頃）